

2005年(平成17年)3月1日(火曜日) 京都

26

消費者は意識改革を

京大講師の西村さん講演

人と地球を守る農業を
考える府民ワークショップ下京区で開かれた「人と地球を守る
農業を考える府民ワークショップ」

研究会「人と地球を守る農業を考える府民ワークショップ」(府主催)が26日、下京区のキャンパスプラザ京都であった。写真。京都大フィールド科学教育研究センター講師で有機農業に詳しい西村和雄さんの講演に、約80人が聴き入った。

西村さんは冒頭、近年盛んに唱えられるゼロエミッション(廃棄物排出

ゼロ)について、「人間が生活を営む以上は不可能だ」とし、資源消費のペースを少しでも遅くするべきだと主張。農業や化学肥料なしに耕す自分の畑では、野菜の葉が雑草と同じような色だが、ゆでると濃くなりおいしいと話した。

また、「農地から余分な窒素やリンが流れ出すほど環境に負担をかけて

作られた野菜をありがたがる時代は終わったと、消費者の意識改革を訴えた。山すその棚田の耕作放棄がふもとで水害を引

き起こすとも指摘し、「ちゃんと農業を守ることが自然環境の保全につながる」と締めくくった。

【鶴谷真】